学校番号	3010

令和8年度　　工業　　科

教科	工業	科目	デザイン計画・演習	単位数	2 単位	年次	3 年次
使用教科書	自主編成教材						
副教材等	デザイン実践（実教）・デザインの色彩（日本色彩研究所）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

プロダクトデザイン実習では、前期・後期に、各３つの班に分かれる。生徒は前後期に希望するセクションを１つ、年間に計２セクションを選んで学習する。生徒が自ら社会とデザイン問題意識を持って改善・向上を目指して主体的に取り組むとともに、プロダクトデザインの実践的な各表現スキルを身に着ける。特に様々な素材と加工の技術等の応用力を身に着ける。１．インテリアデザイン、２．照明デザイン、３．生活デザインの３つのセクションが設定される。制作された作品は制作して終了でなく、コンペティションにも積極的に参加を求める。最後に自己作品のプレゼンテーションを行い情報発信能力の育成や姿勢も重視する。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】

２年生までに学んだプロダクトデザインに関する基礎的な知識と技術を習得したものを生かして社会に通用する作品作りに挑む。

【思考力、判断力、表現力等】

自ら課題を見つけて解決していく。デザイン工程を計画し、調査・検討・企画・デザインワーク・情報発信等を総合的デザインワークとして取り組み、特に様々な素材・技術等を用い加工の技術等の応用力を身に着ける。

【学びに向かう力、人間性等】

様々な方法でのプレゼンテーションに取り組む。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a：知識・技術	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	プロダクトデザイン分野について社会的な意義や役割と人と技術とのかかわりを踏まえて理解するとともに、関連する知識を身に付けるようにする。	プロダクトデザイン分野の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。	プロダクトデザイン分野に関する広い視野を持つことを目指して自ら学 び、工業技術の発展に主体的かつ 協動的に取り組む態度を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	デザイン基礎1	・材料学 ・構成の原理 ・意匠権について	a：知識を正しく理解しているか。また学んだことを生かして作品制作を行っているか。 b: 課題に関する基礎的な知識を身に付け、知識を生かして作品制作を行っているか。 c:自ら考え、適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けているか。	学習状況の観察 定期テスト	課題レポートの提出状況	学習状況の観察 課題提出状況
2	デザイン基礎2	・デザイン史 ・伝統工芸 ・色彩について	a：知識を正しく理解しているか。また学んだことを生かして作品制作を行っているか。 b: 課題に関する基礎的な知識を身に付け、知識を生かして作品制作を行っているか。 c:自ら考え、適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けているか。	学習状況の観察 定期テスト	課題レポートの提出状況	学習状況の観察 課題提出状況
3	デザイン基礎3	・様々な用語 ・人間工学	a：知識を正しく理解しているか。また学んだことを生かして作品制作を行っているか。 b: 課題に関する基礎的な知識を身に付け、知識を生かして作品制作を行っているか。 c:自ら考え、適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けているか。	学習状況の観察 定期テスト	課題レポートの提出状況	学習状況の観察 課題提出状況

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度